

第4回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 議事概要

日 時： 令和3年4月26日（月） 午後2時～4時

場 所： 白山会館2階 大平明浄の間

出席者： 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会

小池由香委員、佐藤由香子委員、佐野可寸志委員、鈴木孝男委員、
富山栄子委員、樋口秀委員長、柳沢厚委員
オブザーバー

上村康司（新潟県土木部都市局都市政策課長）

欠席者： 田村圭子委員

1 開会

2 挨拶

3 議事（意見交換）

（1）第1～3章（素案）

（事務局） 資料説明

（樋口委員長） 目標年次のところで、資料1は概ね20年先を見据えて2032年度と書いてあるが、参考資料1の4ページには、10年後の令和13年度、2031年度とある。これは資料1の32年が正しかったのか。基準年がいつなのかが書いてある方がよいと思う。

（事務局） 基本的には、できた年度の10年後とする。目標としては今年度策定することを目指しているので、2021年度の10年後ということで2031年度に表現を統一する。

（樋口委員長） 基準年は、計画ができたときとは言っても、計画をつくる段階では、データ上の基準年は少し前になるということか。

（事務局） データについては、その時点の最新版を使う。その基準年は、それぞれのデータによって若干ずれが生じてくるものと考えている。

（樋口委員長） 概ね20年後を目指しつつも、10年後を目標年次として計画がつけられていることを踏まえて、皆様からご議論いただければと思う。

（富山委員） 非常によくカバーされていると思うが、スマートシティとかデジタル化の潮流等のキーワードをここの全体のコンセプトに入れてはどうか。例えば、（4）公共交通、（6）観光、（7）防災のところは、すべてデジタル化の潮流とスマートシティということに関わってくると思う。スマートシティのキーワードが入っていないことと、デジタル化をもう少しきちんとキーワードとして入れるとよい。ゼロカーボンシティやICTの進展等に

関わってくる内容だと思うので、キーワードとしてスマートシティ、デジタル化をこの表紙（資料1）に入れたらよいと思う。

（事務局） 都市をめぐる動向として1～7までのタイトルをつけているが、これをどういう形に整理するかが非常に悩ましいところで、ご指摘いただいた部分の名称を入れたり、取ったり、いろいろと検討している。10年後を見たときに、収まりがよい形にしているため、ご指摘を受けながら直していきたい。見た方が分かりやすいものになる工夫は引き続きしていきたい。

（樋口委員長） 自動運転等の車の動きもかなり加速している。電気自動車等が出てくると、駐車場のあり方やガソリンスタンドのかたちも少し変わってくるような気がする。それが10年以内かは分からないが、20年先を見据えるのだとすると、そのようなことについても取り込んだ方がよいと思う。

（2）第4章（方針素案）

（事務局） 資料説明

①方針1

（小池委員） 方針の説明のところでは「共生」という言葉が入っているが、方針名で「共生」が入っていないのには何か理由があるのか。自然・田園と市街地共に両方で暮らしていくことができることが新潟市の1つの特徴のような気がするので、もし可能であれば、さらに「共生」という言葉を入れたらよいと思う。

（樋口委員長） 「共生」が方針の説明にはありつつも、方針名から除いた理由はあるのか。

（事務局） 前回までの議論の中で、都市と農村が共存しているところが新潟市らしさであり、特徴であるが、今後は一緒になって高め合っていくようなポジティブな表現がないかということから、「共鳴できる存在」という意見があったことを踏まえて書き込みを追加している。そのあたりを強調したいがために、「共生」の部分を削ったというところもあるが、あった方が分かりやすいということも含めて引き続き検討したい。

（樋口委員長） 参考資料2の7ページのところで、「将来にわたり適正な市街地規模を維持する」ということで「適正な」という文言が入っている。例えば、人口等のいろいろなものが変わらない中で、適正ということはみんなイメージの共有ができそうだが、冒頭で目標年次の話もあったように、これから人口減少がどんどん進んでいく中で、どのように「適正な規模」を判断するのか。何か目標値があって、そこに落とし込んでいくのか。

（事務局） 「適正な規模」というところについて、都市計画の中では一般的には市街区域と調整区域がある。基本的には、前回までの議論の中では、少し抑制をしながらという話をさせていただいた。一方で、まちづくりの観点か

らすると、両方が混在しているというところがあるので、どうしても必要な部分はある。規模といっても、どのぐらいの規模がよいのかということについては、一概に言いにくく、見える化がしづらい部分がある。適正化ということ意識するという意味で、その内容にしている。

(樋口委員長) 拡散を防止するためにも適正な規模があるだろうという話だと思うが、難しい表現だと思う。皆さんから意見をいただきながら、市民の皆さんにも分かりやすく、我々も共通認識を持てるように目標 1-5 の文言をよいかたちにしたい。

(鈴木委員) ここには、やすらぎ堤の話も入っているのか。他のところにも関連するかもしれないが、特に都市部だと河川沿いの親水公園、散策路が強調されている。新潟は冬が長いので、冬場や雨の日のときにもしっかりと雰囲気の良いウォーターフロントの場所で過ごせるようなまちになると、中心部の中心性が高まっていくという印象を持っている。かつては、堀があってその周辺も賑わっていたが、今は信濃川周辺がそのような場所にあたる。河川敷だけではなく、その周辺の建物の3階、4階レベルとうまくつながりをもてたらよいと思う。やすらぎ堤を歩いていて思うのは、朱鷺メッセもメディアシップもシームレスに30階や最上階に昇ることができる。警備員にも誰にも会わずに夜遅くまでビルの中と直結している。散策路が立体的になり、夜まで動線を確認できるということは新潟の街中の特色だと思う。ただし、そういうところにアクティビティの接続がやや弱いような気がする。朱鷺メッセは夜に行くと景色は綺麗であるが何もない。もう少し快適に過ごせるように、都市経営の視点を入れると、ビジネス的な観点が入ってきたり、戦略的に人と人が交わるような仕掛けを設けることができると思う。そういうところにもっといいなを感じる。それが季節を問わず、公共交通とうまく連動していくともっと魅力が高まると思う。

(樋口委員長) 方針1は季節感や時間の概念がもう少し出てくると多様性ももっと出てくるかもしれない。ぜひご検討いただければと思う。

(富山委員) 参考資料2の3ページの「環境に配慮した都市づくりを实践する」のところで、廃棄物の再資源化とか水問題とある。目標 1-2 の「環境に配慮した都市づくり」だけが、方針1に入るのか疑問に思う。例えば、水の問題であれば、快適な住まいに暮らすことができるとか、それぞれの地域で質の高い暮らしができるとか、方針1ではないところに入る内容であるような印象を持った。廃棄物にしても、これが田園都市と市街地の共鳴に入るのか。目標 1-2 は、むしろSDGsを強調するのであれば、環境に配慮した都市づくりということで、新しい方針として独立させてもいいようなイメージがある。このページだけ、方針1に入るのか疑問に思う。

(樋口委員長) 目標 1-2 は、大きなテーマである。これについては、ここで議論というよりは、事務局でもう少し揉んでいただいた方がよい。富山委員が言うよ

うに、目標 1-2 に対して、小さな取り組み方針が、かなり具体的になっているので、もう少し目標 1-2 は大きい感じがする。そこのバランス感覚もご検討いただければと思う。

②方針 2

(柳沢委員) 方針 1 から 5 までを見ると、私の理解では、方針 1 と方針 2 が上部構造であり、新潟市のこれからのまちづくりの 2 枚看板だと思う。それに対して、方針 3、4、5 はそれを支える交通、産業、防災で、そこにもう 1 つ環境があってもよいというのが先ほどの議論になる。これらが下部構造であり、上部構造を支えるものと理解すると、比較的よくできていると思う。方針 1 は、政令都市の中では突出して、田園や自然環境が豊富で、この特徴をきちんと押さえて、活かしていかなければ意味がないという話になっているので、それはとてもよいと思う。

方針 2 が少しぼけている気がする。「日本海拠点都市」と書いてある。これはオールジャパンで見たとき、この場所の独特の位置について、例えば、港湾がある、日本海の中の一番大きな都市である、交通の面でも独特の位置にある、気候についても日本海の独特の環境に育まれて文化ができている等を意識して書くべき。オールジャパンで見たとき、日本海地域の大きな都市である特徴を伸ばしていくことがその後の目標になると思う。そういう意味では、なんとなく尻切れとんぼのような気がする。例えば、目標 2-3「都市や地域の中心をつくる」というのは、中を読んでいくと、なるほどという感じにも思えるが、都市の顔を、この場所にふさわしい顔として磨いてから、さらに育てていくというような話だと思う。それは目標 2-4 とかなり関連がある。その辺を再整理した方がよい。つまり、言いたいのは、日本海拠点都市と言いながら、自分のことの中に入っている感じがする。やはり全体を見渡して、ここは特別だぞという特別感を出す政策を打っていくことだと思う。

(樋口委員長) 整理していただいて、すごく分かりやすくなったような気がする。事務局の考えはあるか。

(事務局) 指摘のとおり部分が非常に多くあるので、また改めて整理したい。都心という言葉がいろんなところに登場していて、分かりにくくなっているように思う。そこは、表現の仕方に注意していきたい。

(樋口委員長) 方針 2 のオールジャパンという意味でいうと、目標の 1 から 5 の中で、オールジャパンに関するのをもう少し念頭に置いた方がよい。

(樋口委員長) 方針 1 と 2 とその他にも関わるが、言葉の使い方について、方針 1 は「市街地」が出てくる。先ほどの議論では、「市街化区域」のようなイメージがあった。全部の方針の中に「地域」という言葉が出てくる。この「地域」がいろいろな資料を見ると、「各区」という言い方になって出てくる。「各区」のことが「地域」なのか、そうではないのか、「地域」

という言葉の捉え方が不明瞭なところがある。また、「まちなか」が出てくる。参考資料1の15ページに現行のマスタープランの絵が載っている。そこには、各区とまちというものがあり、まちが市街地になっていて、まちなかが各区の中にある。「市街地」と「地域」と「各区」、「拠点」と「まちなか」という言葉が、今回の都市マスタープランの中でどのように使われるのかを整理しておいた方が分かりやすいと思う。

(佐野委員) 参考資料2の9ページの取組方針 2-1-1 を見たときに、新潟西港があまり載っていない。目標が「国際的な核」をつくとあるので、西港はそれほど国際的ではないのかと思ったが、西港とその周辺地域も含めてかなり重要な部分を占めると思うので、ここに入れるかどうかは分からないが、西港とその周辺のことについて、どこかに入れたほうがよいと思う。

(鈴木委員) 「にいがた2km」を歩いてみたが、まだまだこれからのところもあると思う。ここに都市機能を集中させることになると思うが、もう少し戦略性が必要だと思う。ロゴをつくって地域に周知するというのも大事かもしれないが、もっとダイナミックに誘導するなりの手を打つということが、スピード感をもって推進していく上では必要だと思う。そこに派生する朱鷺メッセまでの通路やライン、古町、下町のあたりも一緒に取り組むとなると、より多くの課題がまだ残っている。そこも整備するとなると、かなり広範囲になってしまう課題があると思う。

商業活性化については、新潟全体を活気づけるためには、中心部の活性化が何よりも大事で、田園と都市が共鳴するためには、都市側が盛り上がりがないといけない。「商業の活性化の促進」と書いてあるが、もう少し希望が持てるようなビジョンを示していかないと、なかなか動きができてこないと思う。区別の構想の役割かもしれないが、もう少し深掘りをしないと、なかなか変わらないという印象を持った。

(樋口委員長) 萬代橋でチューリップがきれいに植えられていて、歩いている方がすごく気持ちよさそうであった。チューリップも「にいがた2km」を盛り上げていけるとよいと思う。

③方針3

(佐野委員) 「にいがた2km」というのが、わりと目玉にあると思う。それを明示的にサポートするいろんな施策が、もう少しクリアに書かれるとよい。探せばあると思うが、目立つかたちで書いてもよいと思う。

(樋口委員長) その場合は、公共交通や自転車、歩けるという観点もある。そこら辺をもう少しイメージ的に強調されてもよいと思う。片側2車線の道路が、あのままなのか、それとも見直すのかという内容については、ここに書き込めるかどうか分からないが、これから10年、20年を考えると、あのままでいいというわけではないと思うので、ぜひ積極的に書くとよいと思う。

(鈴木委員) これに関しては、「にいがた2km」の他に、集客力のある公共施設にストレスなく移動できるということの方がよいと思う。スタジアムやりゅーとびあのエリアに関して、アクセス性が悪い感じがする。美術館や水族館もそうかもしれない。そのようなところには、車で行くという手段がメインになっている。少なくとも市内の方や中心部に住まれている方々が、車以外の手段で、ストレスなく集客力の高い施設に移動できるような交通システムになるべきということ、いろいろな市民の方々、特に高齢者の方々からよく聞くことなのでお願いしたい。

(樋口委員長) 他都市では、スタジアムから歩いて帰ることを楽しむところがある。ビッグスワンからは遠いのかもしれないが、観戦後の余韻を楽しみながら歩いて帰れるというのも非常に大事なことなので、そのようなことも入れるとよいと思う。

(樋口委員長) 方針2にも関わるが、参考資料2の13ページで都市づくりの取り組み例があり、「駐車場条例の改正」と「駐車場整備計画の見直し」が入っている。先ほども議論したように、車のあり方がどうなるのか分からない部分もある。例えば、移動の点について、公共交通を推したいということならば、車との共存ということもあるが、強弱をつけた方がよい。新潟市では、移動については、この10年推していくというものが前面に出ていた方が分かりやすいように思う。

(富山委員) 参考資料2の22ページにある「MaaSを含めた新たなモビリティサービスについては民間事業者への支援を積極的に行いながら、新潟市にふさわしいサービスを検討していきます」ということについて、新潟市が支援ばかり行うよりも、むしろ民間にどんどんやってもらって、官民連携で民間の力を大いに活用する方がよいと思う。民間事業者に支援を積極的に行うということは、もう一回考え直した方がよいと思う。

(小池委員) 参考資料2の25ページの取組方針3-3-4の「健幸都市づくりの推進支援」について、目標3-3のような環境をつくることによって健幸が生み出されていくというような書きぶりのはず。ここだけ逆にしたような感じがする。ここがいいのか、生活圏レベルの方がよいのか分からない。

(樋口委員長) これは、生活圏レベルの方にもっていきながら、結果としてこうなるということだと思う。

④方針4

(富山委員) 資料2-2の4ページの方針4の「活力ある産業・交流都市 新潟」を見ると、ほとんど農業や食関連のことしか書いていない。新潟市がもっと魅力的になるには、産業をしっかりと興して雇用を確保していくことが必要。もちろん、農業と食は大切ではあるが、ここだけ見ると、新潟は農業と食

しかないように思う。主な視点のところには「多様な産業集積やイノベーションとは」と書いてあるが、考え方のところを読むと、新潟は農業だけのように思うので、IT や事業創造等の魅力的な産業を加えるとよいと思う。

(樋口委員長) 今の指摘を受け、先ほどの2章の「新潟市を取り巻く状況」のところは、指摘につながるような分析をしたほうがよい。参考資料1の「2.新潟市の現状」のところに書いてある「産業」を見ると、富山委員が指摘する部分につながっていると思うが、強調したほうがよい。

(佐藤委員) 富山委員の意見に関連してくると思うが、新潟はやはりすごく大きな都市だと思う。資料では、地域やまちなか、区等のいろんな言葉が飛び交っているが、新潟は北区から東区から中央区から南区から江南区があり、それぞれの区の特徴があると思う。例えば、工業が長けていたり、農産物が長けていたり、商業系になっていたりする。区の特徴をもう1つ掘り下げて、それぞれの区の特徴を列記して、その中で方針1や3を書くべき。空港は東区にあるが、非常にアクセスが悪く、たどり着くのに大変な方が非常に多くいる。その中で、新潟らしい区を整理した上で、方針を考えていくと、いろんなものがまた出てくると思う。

(樋口委員長) 新潟市全体ではあるが、各区の特性を踏まえて方針を書いた方がよいという指摘で、第2章の分析にもそのような部分があってもよい。

(鈴木委員) 農業関係が非常に多いが、それ以外の工業関係がどうかということは非常に重要だと思う。そのときに、どのように特徴を出せるかということは考えてほしい。例えば、グリーンファクトリーやオープンファクトリー、緑豊かな公園とセットになったような工業団地など。そこでは、働き場の場だけではなくて、憩いの場とセットになるように開発されているところがある。新潟ならではの景観の話もあったが、田園というところを強調して、何か特徴を引き出した新しい工業団地の形成なども考えられると思う。

もう1つ。田園都市というのは、ここは農業の部分であるが、「食」という部分ともっとつながりを持ってほしい。例えば、アグリパークがあるが、あの付随機能が駅の中、まちなか、駅広場にあるということになった方が、新潟に来てより田園を感じられる。新潟の特徴を感じて、新潟の食を直接味わう体験ができるようになれば、もっとそこに足を運ぶようになって、新潟をPRできる。港湾や空港についても、もう少し新潟らしさを直接感じられるような工夫があってもよい。

(樋口委員長) 各区の特徴を踏まえるという意味では、先ほどの佐藤委員の意見につながる部分もある。各区の拠点をよくするということもあるが、そこに個性が入ってくるとつながりも生じると思う。同じものをつなぐというよりは、色が違うというところを強調してもよいと思う。

(鈴木委員) 新潟市は工業団地を分散している。民間提案で工業団地を広げていくや

り方だと思うが、このやり方には、もっとメリハリがあってもよいと思う。もう少し力を入れる工業団地があって、そこにはハイスペックに最初から基盤を整備して、そこに見合った企業を誘致して誘導することがあってもよいように感じる。それは、あえて分散というところに進もうとしているのか。もう少し違った道があってもよい。もっと大きなインダストリアルパークみたいなものがある、そこには工業だけではなく住宅団地や教育施設と一体となったようなエリアがあってもよい。

(樋口委員長) 新潟市の産業政策にも関わるところだと思うが、何か方針のようなものがあるのか。

(事務局) 工業団地は新しくいくつか作っている。新潟市は好調な事業があり、事業拡大したいけれど場所がないところもある。直近のニーズに速やかに対応したいということで、特殊なしつらえをした工業団地ではなく、民間提案型での資金活用のようなかたちで早急にやったといういきさつがある。企業にとってニーズが高いところに対応したということが今回の指摘の部分になっている。ただし、基本的には、これで終了ではないと思っている。それぞれの企業が新潟で活躍したり、新潟に進出したいというニーズへの対応をしていかないと産業活力が出てこない、引き続き検討したい。

(樋口委員長) 20年先を見据えるという、出せないものは書けないが、鈴木委員がいうように、何か強調できるような部分を書いておくと、方針の先が見えやすいのかもしれない。

⑤方針5

(富山委員) 方針5について、目標5-1は空間的なところをどのように整備していくかという内容で、目標5-2の方では、その中に点在しているいろんな防災に関するものがつながってくるので、面と点でもっとつながってくると思う。その中で、いわゆる災害弱者という言い方がよいか分からないが、その人たちが生じたときにどう対応していくかという観点がもう少し盛り込まれているとよい。参考資料2の35ページの取組方針5-1-4のところで、住宅のリフォームというところがある。「バリアフリー＝防災に強い」が必ずしもそうではないと思う。もちろん、バリアフリー化されていることは、防災のときには避難しやすいということではあると思うが、それだけで非常に防災に強い住宅づくりなのか。もう少し配慮のある住宅づくりも可能性としてあると思う。ここに、もう少し災害弱者に対する配慮のようなコメントが入っていると、安心して暮らせるというところにつながると思う。

(樋口委員長) 災害弱者について、最近個人情報問題で名簿をつくることはしないようになったが、それでは防災上は無理だということで、地域でいろんな情報を共有し合うことが進んでいる。バリアフリー化への支援だけではなく、他都市は耐震化等をあわせてやっている、記述も含めて内容をご検討いただければと思う。

- (鈴木委員) 「共助」というところについて、自主組織や地域組織こそDXが求められている。担い手が高齢者のケースもあるが、情報の管理の仕方や、普段のコミュニケーションの取り方、情報の発信・伝授等は、防災とセットで取り組む必要がある。その他にも、普段の地域づくりもDX化する。危機感のあるところは防災だと思うので、そういうところからメスを入れる必要がある。
- (樋口委員長) 別の視点になるが、安全安心のところでは、津波、浸水、地震がある。新潟もいろんなまちがあり、先ほど「まちなか」という言葉が出たが、火災が発生したときに延焼することがあり、火災で延焼して再建ができず、転出する方が多くなる事例がある。火災対策や延焼対策のようなこともした方が非常によいと思う。また、そのときに、空き家があるとそこに入れず、火災が広がることもある。空き家対策とまちなかの魅力を合わせると、火災の防災性能も上がるので、火災に対する視点も少し持つ必要がある。
- (佐藤委員) 仮設住宅の造り方という点で、建築士会で話し合ったことがある。最近、非常に平屋住宅の人気がある。バリアフリーは当然ではあるが、水害でかなりの水がきたときには2階に避難ができない。そこで、屋根勾配を強めにして、その部分に1階から階段をつくって、ロフトの部分をつくっておく。そうすれば、そこに避難ができるという話をしたことがある。建築基準法上は、1.4メートル以下の高さでつくりなさいというところはあるが、それは十分に避難できる空間となる。今後、もし仮設住宅を造る取り組みがあれば、そのような造り方も考慮したらよいと思う。
- (樋口委員長) 防災の視点を先に入れておくと非常によい。選ぶのは市民の皆さんかもしれないが、そのような視点も入れておくとよいと思う。平屋住宅はいろいろなところで言われていて便利である。ただし、防災上、非常に弱いというのは分かっているので、ご検討いただければと思う。

⑥方針6

- (鈴木委員) 健康とまちの空間は連動していて、頑張って運動するということではなく、無意識に運動できるようなまちの空間をつくり、そういう仕掛けをつくるのが求められてくると言われている。このコロナ禍で、私が関わっている地域では、数カ月自宅待機が続いただけで、お年寄りの方が杖をつき始めたということが起きている。普段から顔を合わせるような機会や外に出る機会が非常に重要だと強く認識している。ぜひ、都市であっても、田園の集落であっても、健康を保つ「空間・しつらえ」のようなことができなにか、と感じている。健康はこれから非常に重要なキーワードになってくるので、生活圏の中で強調して、地域でできることは地域でやらうことについても踏み込んでいただければと思う。
- (樋口委員長) コロナ禍で外部の貴重性や公共空間のありがたさがすごく高まっている

ように思う。そういうものが盛り込まれているとは思いますが、もう少し強調してもよいと思う。

(樋口委員長) 目標 6-2 では移動が入っているのが、方針 3 との役割分担みたいなものはうまくいっているか。方針 3 は拠点をつなぐという大きな移動ということで、目標 6-2 は細かな移動となっているが、そういうことでよいか。鈴木委員が言ったような概念が入り込んでくると非常によい。

(鈴木委員) 参考資料 2 の 39 ページの商業の空き店舗の有効化について、お金を渡す支援だけでは弱いと思う。例えば、商工会議所のようなところで、ソフト的な経営サポートというのができないかなと思う。中間支援組織が、創業や経営安定化をサポートしていく。そのノルマとして、空き店舗で年間何店舗かを立ち上げる意識を持つ組織があればよいと思う。ここも戦略的にやっていかないと、なかなかできない。

また、移動販売車にスーパーが取り組んでいる事例があるが、それこそ都市と田園のつながりだと思う。朝市等もそうだが、そういう物流のつながりを強めていくこともセットで考えていかないと、買い物難民問題等が生じる。地産地消はもっと強めて取り組んでもよいと思う。

(樋口委員長) 空き店舗を使うだけではなくて、商業や小売という意味では、移動販売の位置づけは重要になる。商工会議所や N P O との連携も盛り込まれるとよいと思う。

⑦方針 7

(鈴木委員) 個性を引き出すために、歴史的な資源、文化資源を活かすことや、特徴的な美しい風景をつくるということになると、ガイドラインが必要だと思う。プレイヤーは住民の方々だと思うので、そういう方々がしっかり意識を持ってもらうために共通認識が必要だと思う。「美しい風景とはどういうものを指すのか」「新しい場のプレイスメイキングの仕方」等、持続的に取り組みが継続していくように意識を持ってもらうためには、マニュアル等のガイドラインのようなものが必要だと思う。

(樋口委員長) その場合は、地域の景観から取り組んだ方がいいのか。それとも農産物等か。

(鈴木委員) そこは多様性だと思う。住民の方に選択してもらうことがあってもよいと思う。ガイドラインをつくる前に、地区・地域ごとに計画をつくり、その計画づくりをサポートする専門家の派遣制度等も必要。そういうことがないとガイドラインだけでは難しいかもしれない。

(樋口委員長) 地域で競い高め合ってもらえるような仕組みをつくることや、モデル地区をいくつかつくることも考えられる。先ほど健康づくりの話があったが、その地域に行って歩いて楽しむこともでき、そこで農業生産者の方と語り合って食を楽しみ、買って帰ることもできる。そのような一連の動きが見

えてくるとよいと思う。そこで、気に入るとこの移住モデルにもつながると思う。

(富山委員) 参考資料2の44ページの農業体験について、子どものうちに農業体験をすることは、生涯にわたって貴重だと思う。今はコロナ禍で難しいかもしれないが、新潟市内の子どもはもちろん、都市からの子どもだけではなく、全国区で農業体験をしてもらおうというのは、すごく良い経験になると思う。その経験が、将来新潟に行こうという気になると思うので、これは大きな魅力であり、必要な教育であり、新潟の発展にもなると思う。コロナ禍が一段落したら考えてもよいと思う。

(樋口委員長) お米もあるが、新潟は果物も盛んなので、それが魅力として伝わるとよい。

⑧方針8

(佐藤委員) 全国でも新潟でもすごく高齢化が進んできている。高齢者の方が今の子育て世代であったり、外国人も快適に長く生活できるようにするという中で、新潟市でもバリアフリーや省エネのリフォーム等の促進がかなり活発になってきている。そこに暮らす当事者である本人が基本的に健康でなければいけない。先日、建築士会のまちづくり勉強会で病院の医師の委員から講演をしてもらった。それが「時々入院、ほぼ在宅」というテーマで、「時々入院、ほぼ在宅」というのはいい言葉だと思った。それは健康管理をしていくことで、早期発見や健康診断のようなものが必要となる。地域で暮らす中では、医療は切っても切れない状態になっていくと思う。そのまちの医者や病院、適度に運動できる施設が、それぞれの地域で分かりやすく明記されていると、住む人にとってもありがたいのではないかと思う。

(樋口委員長) 方針5の「安心」という意味を踏まえると、医療関係というのは非常に重要。医療の質と核、地域、運動施設等も踏まえて、生活習慣を見直していただくと、方針8がもう少し魅力的になると思う。

⑨全体を通じて

(柳沢委員) 方針7に関して、東北の北上市が独特のことをやっていて、非常に面白いと思った。任意にグループをつくって、そのグループが、この場所はとてもよいので場所の維持管理を責任もって行い、それに対して、若干市からの支援があるという仕掛けになっていて、市民が自ら手を挙げる。そうすると、市は、その場所を継続的に管理してくれますねという約束をして、認定書を渡す。形式はともかくとして、市民が自分でやりたいと思って、大事にしたいと思った場所について、お墨付きと若干の支援をするというものはよいと思う。

それとは別になるが、地場産業の独特の場所や先端産業を、子どもたちに見せるようなプログラムをつくって、地元に着と誇りのきっかけをつ

くるような話もある。産業では、そういうことを考えるといろいろな可能性があるような気がする。それを書く必要はないと思うが、視野に入れていただきたい。

それから、方針6のところ「歩いて暮らせる」という常套句がある。これはむしろ、歩きたくなる環境をどうやってつくるか。高齢者が1日に1時間くらいは歩きたいと思うようにする。私は、1日1時間は意識して歩いているが、やはり目的物や休む場所、気の利いたカフェがあるととてもよい。まちなかの中心しか行けないのでは少し面白くなく、外れたところでもそういうものがあるとよい。カフェではなくても、ベンチでもよいが、普通の人が自分の住宅地の中で1時間歩いて帰れる環境を整えてあげてことを考えるとよいと思う。

(樋口委員長) 歩きたくなる環境をつくと歩くようになるというのは、本当にそうだと思う。いろんなまちを歩いていると、新しく開発された工業団地や、全く人が歩きそうにない歩道にはお金をかけてつくってあるが、誰も歩いていない。子どもたちが通う道路はどうしても狭くて、車が通って子どもたちはかわいそうだなと思う。歩きたくなる環境のつくり方やお金の出し方等も含めて、新潟市に歩きたくなる環境がたくさん増えるとよい。他都市の事例をご紹介いただいたが、詳しくはまた委員から明示していただいて、盛り込んでいただけるとよいと思う。

(佐野委員) 整備がわりと出てくるのですが、維持管理ももう少し強調してもらえるとよいと思う。

(富山委員) 柳沢委員が言っていたことであるが、方針1と方針2が上部構造で、それ以下は下部構造になるかたちがよいと思う。なので、「目指す姿」が方針1、方針2で、それ以下は下部構造になるような書き方にしてもよいと思う。方針2は「個性ある日本海拠点都市新潟」と書いてあり、これだけ聞くと国際都市なのかなと思うが、内容を見ると国際都市は最初の項目だけで、それ以外は新潟市内をどうしていくかという内容になっているので、国際都市と国内を分けるとよいと思う。

また、既に読んでいるかもしれないが、国が4月6日にスマートシティガイドブックを出していてインターネットで読むことができる。ここでは、各都市の先進的なDXやスマートシティの取り組みが書いてあるので参考になる。それを読んで、それらの内容を散りばめるとよいと思う。デジタル化とデータ活用が本日の資料でも貼り付けてあるが、それが非常に目立たなくなっている。お金を使うばかりではなくて、稼ぐことも考えないといけないと思うので、方針4のところを目立たせるとよいと思う。

(佐藤委員) 地域での暮らしから都市までに至って盛りだくさんであり、1つ1つ大変だと思う。地域のことから言えば、歩いて楽しいまちが重要だと思う。

私も歩きながら、雨が降ってきたらどうしようとか、どこかに休めないかなとか、東屋みたいなものがあつたらどんなにいいだろうとか、そんなことを思った。前日も言ったのですが、やはりトイレが必要になる。心地良く散歩しながら目的地に行くまでに、ちょっと遠くても休める場所やトイレがあることが分かると、歩いて頑張って行き着こうという気持ちになるので、そんな環境も整えていけたらよいと思う。

(小池委員) 方針6の居場所というキーワードについて、会議の中でずれているという話をした気がするが、方針6のところで、もう少し居場所というキーワードが見えてくるとよいと思う。便利さとその場所での生活のしやすさがリンクする部分もあるが、必ずしもそれだけではないと思う。

また、全体的に、全市レベルと生活圏レベルでの方針の2つに分けて分かりやすくなったと思う。

自分の専門の福祉のところについて、いろいろなことが生じたときに、生活のしづらさを感じたり、メリットとなる補助・恩恵の行きわたるのが遅かったり、何かあつたときに最初に外れてしまう可能性のある人たちを、どうこの中に取り込んでいくのか。

私は、沼垂在住でよく歩いているが、沼垂は歩くと楽しい。

(鈴木委員) 何よりも新潟が元気になってもらうことが大事だと思う。中心市街地が活性化することと経済が重要。企業の方々が新潟に拠点を置きたいと思うようなまちにしていきたいと思う。そのためには、特に駅周辺だと思うが、都市機能を誘導する。軸をもっているので、メリハリをつけた都市機能の誘導になると思う。白山等の駅周辺もポテンシャルが高いと思うので、鉄道や住宅地のバス停を中心に都市機能が集約され、それが連関していくようなイメージ。周辺の田園部では、特に中心集落の拠点機能をまとめた上で、その近辺にある中心商店街をどうしていくかという話になると思う。その中心が元気にならないと、ここで期待している田園、集落づくりの制度がうまく機能していかないと思う。

(樋口委員長) オブザーバーでの参加だが、上村氏からも全体を通して何かあれば、一言いただければと思う。

(上村氏) 委員の皆さんから貴重な意見として聞かせていただいた。私どもは防災を重点に安心安全を預かる立場となる。資料 2-2 の5ページの方針5に「防災指針の検討」とあるが、これは国、県、市が一緒になって、今後都市の防災をどのようにしていくかが大きな重点となるので、しっかり書いていただきたい。

あと、方針8で空き家が非常に大きな問題になっている。今の記述では利活用となっているが、利活用だけではなく、空き家を最終的にどう除去

していくか、発生させないためにどうするかということが大きな問題がある。空き家対策の部分で、マスタープランの中にもう少し現状等を書ける部分があれば、もう少し市民の皆さんに危機感を持っていただくような記述が必要だと感じた。別の計画でも記述されているかと思うが、取り上げられる範囲でお願いできればと思う。

(樋口委員長) いろんな計画が連携できて、それをとりまとめながら全市的なところも書き込めるマスタープランになっているとよい。

4 その他

(鈴木委員) 各区の計画はどのようにつくられるのか。区ごとに何か検討したものがあるのか。

(事務局) 現行の都市計画マスタープランにも区別構想という章立てがある。それについては、各区で検討を進めているので、おそらく次回の会議で皆様にご提示できると思う。

(事務局) 次回のこの会議の開催は、概ね2カ月後、夏前ぐらいを予定している。本日の意見を踏まえ、本日は参考資料としていた内容について熟度を高めたいものと区別構想について意見をいただく予定。

【配布資料】

- ・第4回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 次第
- ・第4回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 出席者名簿
- ・第4回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 配席図
- ・資料1 第1～3章概要及び全体構成【素案】
- ・資料2-1 第4章(方針)一覧【素案】
- ・資料2-2 第4章(方針)【素案】
- ・参考資料1 第1～3章の素案【令和3年4月時点】
- ・参考資料2 第4章(方針ごとの目標、取組方針)の素案【令和3年4月時点】